

グローバル化する現代社会においては、世界の地域や場所についての情報をいかに正確かつ迅速に収集するかが重要である。昨今では、インターネットによる情報の普及とともに、海外の地名について調べることがかつてとは比べものにならないほど容易になった。一方で、日本ではあまり見向きもされないような外国の小さな町（自治体）について調べようとすると、日本語での情報が少ないという制約もあり、思ったよりも難しいのが現実である。こういった状況にかんがみ、朝倉書店では二〇一一年以来、約四万八千項目から構成される全世界の地名事典を地域別に順次発刊してきたが、二〇一七年の「アジア・オセアニア・極」版の発刊をもって、全九巻が完結することとなった。四万八千という掲載数は、日本語で書かれた既存の海外地名事典を大きく凌駕する圧倒的な数である。

執筆者は全部で約四百人にもおよび、私はその一人として、二〇一四年十二月に刊行された「中南アメリカ」（約四四〇〇項目）において、ブラジ

## 『世界地名大事典』の執筆に携って 池永啓介

ル関係の地名（約一三〇〇項目）の三割程度にあたる約四百項目の執筆を担当した。執筆は東日本大震災直後の二〇一一年五月に開始し、二〇一四年九月までの約三年弱の間、平日は夜の数時間、休日は半日から丸一日をあて、ほぼ休む暇もなく継続的に行った。ポルトガル語の資料収集、読解、情報の正確性の吟味、執筆項目の選定と実際の執筆作業、内容の再確認というのが一連の作業過程で、地図や統計にも必ず目を通した。これだけの難しい作業であるから、執筆を引き受けた直後はその大変さに正直後悔した面もあったが、徐々にその面白さに目覚め、全てを終えるまで半ば楽しんでながらこの作業を行うことができた。

唯一残念なことは一冊の値段が四万円から五万円近くと高価なことであるが、自治体や大学の図書館にも所蔵されつつあるので、機会があればぜひご覧いただければ幸いである。必ずや多くの方に喜んでいただけるものと自負している。

（いけなが けいすけ／東洋哲学研究所委嘱研究員）